

※注: 当日発表するスライドからの抜粋です。

令和3年度 第9回アーバンデザインセミナー

11/March/2022

世界の伝統的集落から都市と住まいの知恵をくみ取る



立命館大学理工学部/UDCBK 及川清昭

■ 及川略歴

1953年 岩手県生まれ。1976年 東京大学工学部建築学科卒業後、建築設計事務所勤務を経て、東京大学大学院修了。東京大学生産技術研究所助手・特別研究員、東京大学大学院新領域創成科学研究科助教授を経て、2003年 立命館大学理工学部教授。2012年から立命館キャンパス計画室室長。2016年のUDCBK設立時より同センター長。2019年より立命館大学理工学部特命教授。専門分野は建築・都市計画。工学博士。

■ 研究活動：建築・都市空間の調査・解析・計画

【1】 世界の伝統的住居・集落・都市の調査研究

住居配列の形態的特性、素材と風土の関連性、空間の意味構造、民族や場所に固有な空間形成手法など、いわゆる“**居住文化の特性**”についての実証的な研究

【2】 建築・都市空間の解析

空間特性を記述する数理的指標や、幾何学的・形態学的な解析手法・ツールの開発

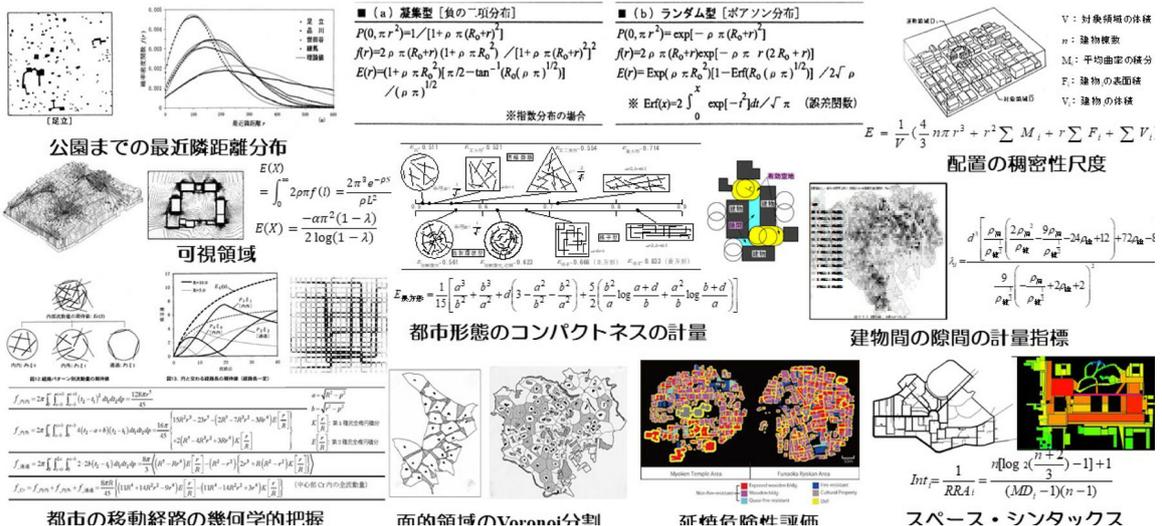
【3】 建築・都市空間計画の実践

建築設計、都市・地域計画・まちづくり、大学のキャンパス計画



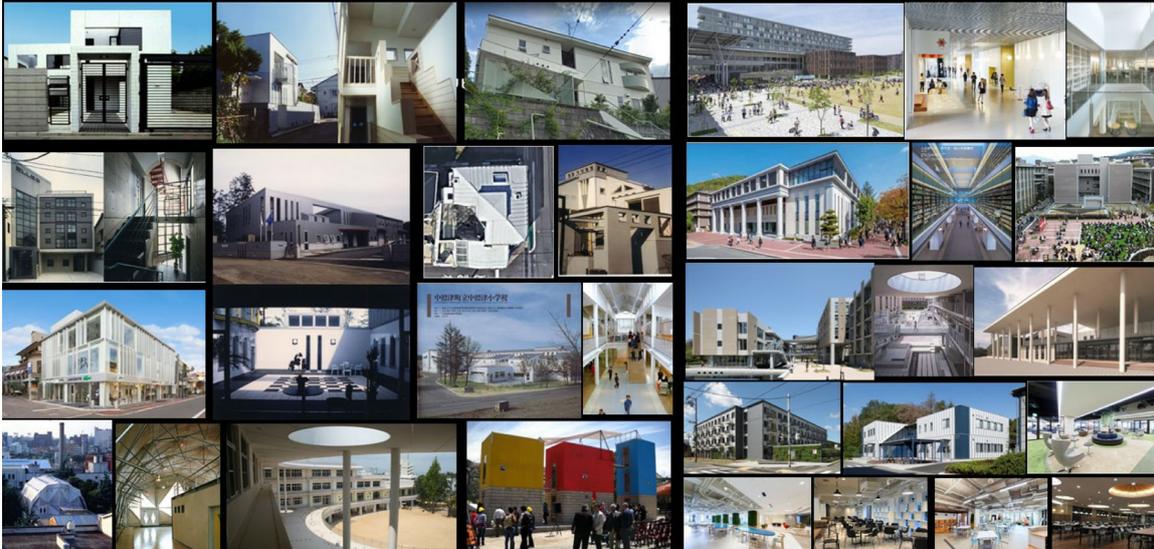
【2】 建築・都市空間の数理的解析

空間特性を記述する数理的指標の開発、都市景観の定量的把握、移動経路と流動量の幾何学モデル、スペース・シンタックス理論、空間情報処理手法など。「都市解析」という研究分野。



【3】 建築・都市空間計画の実践

建築設計、都市・地域計画・まちづくり、大学のキャンパス計画(2012~)。建築都市関連委員会活動(滋賀県内は60弱)



【1】 世界の伝統的住居・集落・都市の調査研究

1. 日本の伝統的まち並みの調査 <1980・1981・1982；全国150箇所>

1980年頃は、日本各地に残る伝統的まち並みの現地調査(約150箇所)を行い、建築形態の背後にある意味や構造を解読する。



※赤丸の街並み及川が調査(調査全体は東京大学・門内麟行氏(当時)による。全107箇所)



家の周囲に黒松の木を植える



柔らかい土地を安定させると同時に、強い季節風を防ぐ。

出雲平野の築地松集落

及川清昭、居住文化論32-出雲平野の住居宅第集落1980年8月号

2. 海外の伝統的住居・集落・都市の調査研究(約330箇所)

1990年から2009年まで、インドネシア・パプアニューギニア・中国・中南米・アフリカ・中東・ベトナム・ラオスなどの地域を対象として、住居・集落・都市の現地調査を継続的に行ってきた(約330箇所)。実測した集落配置図や住居平面図をもとに、自然・社会環境条件と空間構成の対応関係を相互に比較し、住居配列の形態的特性、素材と風土の関連性、空間の意味構造、近代化に伴う住居形態の変容、**民族や場所に固有な空間形成法**など、**<居住文化の特性>**について実証的な研究を行った。

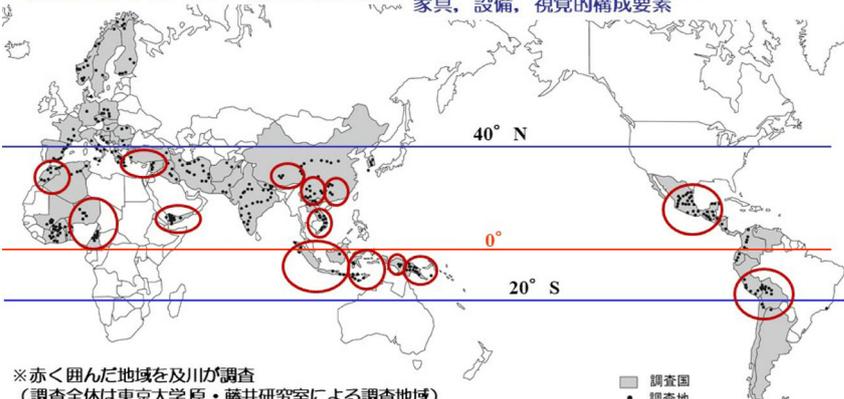
■調査方法論

形態学的アプローチ、「通過する者の眼」

■調査内容

集落配置図、住居平面図・立面図・断面図

家具、設備、視覚的構成要素



※赤く囲んだ地域を及川が調査(調査全体は東京大学・藤井研究室による調査地域)

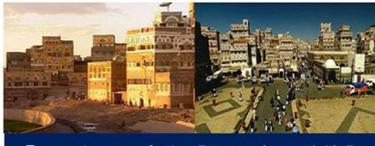
■調査リスト(東京大学生産技術研究所・藤井研究室)

- 1972-中国中部地域：フランス、スペイン、モロッコ、アルジェリア、チュニジア、イタリア、ギリシア、トルコ
- 1974-中南米地域：メキシコ、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラガ、コスタリカ、パナマ、コロンビア、ペルー、エクアドル
- 1975-東欧・中部地域：ドイツ、ポーランド、チェコスロバキア、ギリシア、ルーマニア、ユーゴスラビア、ブルガリア、トルコ、イラン
- 1977-南アジア地域：イラク、インド、ネパール、パキスタン、アフガニスタン、シリア、ギリシア
- 1978-西アフリカ地域：アルジェリア、ニジェール、ガーナ、オーストラリア、コートジボワール
- 1989-中国：黄土高原、華北、黄土高原、四川盆地、雲南高原、貴州高原
- 1989-ベネズエラ：オリノコ川流域、ウララ地方
- 1990-インドネシア：スマタラ島、スマタラ島、バリ島、ロンボク島、クウェダ島、フローレス島
- 1991-パプアニューギニア：セビック川流域、ハイランド地方、トブリアン島
- 1992-メキシコ：太平洋沿岸地域、中央高原、チャパスコタン半島
- 1993-インドネシア：マドゥラ島、イリアンジャヤ、スマタラ島、ロキ島、アロル島、チモール島、カリマンタン島、サバ島
- 1994-南米アンデス高地：ボリビア、ペルー、チリ、アルゼンチン
- 1994-中国：雲南省、湖南省
- 1995-北欧：ブルガリア、フィンランド
- 1995-北西アフリカ地域：モロッコ
- 1996-中国：黄土高原、雲南省、福建省
- 1997-イエメン：サナア中央高地、ティハマ地方、シバーム
- 1997-トルコ：イスタンブール、サフランボル、ブルサ、アンカラ
- 1998-中国：チベット高原
- 1999-中国：アフリカ
- 1999-ベトナム：ハノイ
- 2000-シリア：ダマスカス、アレッポ
- 2001-韓国：江原道、慶尚北道、慶尚南道、全羅北道、全羅南道
- 2003-ベトナム：北西部
- 2005-中国：雲南省、江蘇川流域
- 2005-ベトナム：中・南部
- 2007-西アフリカ：ブルキナファソ、トーゴ、ベナン
- 2009-ラオス：南部、リナムター、北部：バンサー、ルム

【集落調査隊の主な論文・著書】
 江戸・室町の都市空間の形成、及川清昭、『東京の歴史を考える』、朝倉書店、2002
 住居の歴史と都市空間の形成、及川清昭、『東京の歴史を考える』、朝倉書店、2002
 歴史の都市空間の形成、及川清昭、『東京の歴史を考える』、朝倉書店、2002
 歴史の都市空間の形成、及川清昭、『東京の歴史を考える』、朝倉書店、2002
 An Analysis on the Visibility of Minarets in Sana'a Old City of Yemen, Shyokai, Okamura, Islamic Area Studies with Geographical Information Systems, Routledge, Octoon, 2004
 住居の歴史と都市空間の形成と近代の都市空間の形成の可能性(1) -近代化における日・露・イラン比較から、藤井明彦、及川清昭、『建築学』、丸善、1999
 住居の歴史と都市空間の形成と近代の都市空間の形成の可能性(2) -近代化における日・露・イラン比較から、藤井明彦、及川清昭、『建築学』、丸善、1999
 南米インディアの都市空間と居住形態に関する研究、藤井明彦、及川清昭、『建築学』、丸善、1999
 北西アフリカの都市空間と居住形態に関する研究、藤井明彦、及川清昭、『建築学』、丸善、1999
 イスラーム圏の都市空間と居住形態に関する研究、藤井明彦、及川清昭、『建築学』、丸善、1999
 コンパクトシティの形成と都市空間の形成に関する研究 -カオス理論を用いた都市空間の形成に関する研究、藤井明彦、及川清昭、『建築学』、丸善、2000
 ペトナム・南東部における都市空間の形成に関する都市学的研究、藤井明彦、及川清昭、『建築学』、丸善、2000
 ラオスにおける都市空間の形成に関する都市学的研究、及川清昭、藤井明彦、『建築学』、丸善、2000
 Spatial Development of Lao Urban Dwellings along the Malong River, Vongpraseuth Thanouasorn and Kiyoko Okamura, Journal of Asian Architecture and Building Engineering, Vol.9, No.2, pp.403-407, 2010



① 城壁都市シバム
 【及川清昭 監修】
 Old Walled City of Shibam
 2006年5月21日



② サナア旧市街【及川清昭 監修】
 Old City of Sana'a
 2006年11月26日



日本テレビ (読売テレビ) 放映
 ① 2007年 11月17日 (土)
 地球横断80,000km! 驚き! 世界のヘンな家めぐり
 ② 2008年 8月 2日 (土)
 地球横断80,000km! 驚き! 世界のヘンな家めぐり Part.2
 ③ 2010年 7月 3日 (土)
 上半期使える知識ベスト100



① 歴史的まち並みの美しさは、類似性の中の差異性にある <統一性と多様性のバランス>

1960年代から70年代にかけて加速した日本の歴史的街並みへの関心とその調査は、身近な生活空間を歴史や文化という観点から捉え直す大きな契機となり、まちづくりの資源発掘(単一の民家でなく、群としての建築が表現する地域性)につながった。

c.f. 及川清昭, 歴史的町並みをめぐる潮流, 『建築大百科事典』



② さまざまな場所が居住地として選択される

頂上、谷、斜面、断崖、穴居、砂漠、水上、樹上、..., 人々の住まう場所は多様である。場所に適応するために、居住者自身が考え出し、改良してゆく住まい方がある。

